



散布・空散・無人航空機
散布方法を選べる!!



様々な作物を守って
キレイに仕上がる!!

殺菌剤

トップジンM[®] ゾル

チオファネートメチル水和剤

■有効成分:チオファネートメチル…40.0%
■人畜毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■包装:500ml×20本、5ℓ×4本

殺菌剤分類

1

特長

- 広範囲の作物病害の予防と治療に優れた効果を発揮します。
- 液体タイプの剤型なので、粉立ちがなく薬剤の調合が簡単です。
- 無人航空機散布の登録を有し、散布作業の省力化がはかれます。

適用病害と使用方法

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、
本剤及びチオファネートメチルを含む農薬の総使用回数に示す。

効果・薬害等の注意

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用※ 時期	総使用回数※		使用方法			
					本剤	チオファネートメチル				
稲	いもち病	1,000	60～150	14 日	3 回	3 回 〔種子への 処理は1回〕	散 布			
		原 液	0.2				空中散布			
		4	0.8				無人航空機 による散布			
	変色米 (エビコッカム菌)	4～8								
	墨黒穂病、紋枯病	8								
	墨黒穂病、紋枯病 稲こうじ病	1,000	60～ 150				散 布			
小 麦	雪腐大粒菌核病	10	0.8	根雪前	3 回 〔出穂期 以降は 2回〕	4 回 〔種子への処理は1回 散布及び無人航空機 散布は合計3回 出穂期以降は2回〕	無人航空機 による散布			
	8	14 日		3 回 〔出穂期 以降は 1回〕	3 回 〔種子への処理は1回 出穂期以降は1回〕	散 布				
	赤かび病		1,000～1,500			60～150	0.8	21 日 根雪前	無人航空機 による散布	
	麦 類 (小麦を除く)	1,500	8							
雪腐大粒菌核病		10								
やまのいも	葉渋病、炭疽病	5	3	7 日	5 回	5 回	無人航空機 による散布			
だ い ず	紫斑病	5～8	0.8～1.6	14 日	4 回	4 回 〔種子への 処理は1回〕	散 布			
		5	0.8				空中散布			
		20～30	3				散 布			
		1,000	100～300							
ブロッコリー	菌核病	1,500	100～300	2 回	3 回 〔種子への処理は1回 は種後は2回〕	散 布				
		8	0.8～1.6			無人航空機 による散布				
な す	菌核病	1,000	100～ 300	前 日	5 回	6 回 〔種子への処理は1回 は種後は5回〕	散 布			
きゅうり	菌核病、炭疽病									
ト マ ト	葉かび病、菌核病									
たまねぎ	灰色腐敗病	600～1,000	0.8		3 回	7 回 〔種子への処理は1回 苗根部浸漬は1回 無人航空機散布は3回 散布は5回〕	無人航空機 による散布			
		5						2.4		
		16								
れんこん	褐斑病	20	3 8	75 日 4～6月	3 回	空中散布				
み か ん	そうか病	700～1,000	200～ 700	5 回	8 回 〔塗布は3回、散布、 空中散布及び無人航空機 散布は合計5回〕	散 布				
		1,000～2,000	10							
		20～30	5							
	かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 〔青かび病 緑かび病 軸腐病〕	10～15			5	8 回 〔塗布は3回、 散布及び無人航空機 散布は合計5回〕	無人航空機 による散布		
30			10							
15			5							
2,000	200～ 700	14 日	3 回	10 回 〔塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回〕	散 布					
キウイフルーツ						果実軟腐病	1,000			
も も						灰星病	700			
おうとう						せん孔病	1,500			
ぶ どう						黒とう病	1,000	45 日	1 回	5 回 〔塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は1回〕
りんどう						花腐菌核病				
ストック	菌核病	100～ 300	発病初期	5 回	5 回					
ばら	黒星病									
プリムラ	灰色かび病									
シンビジウム	炭疽病									
ゆり	葉枯病									
きく	黒斑病、褐斑病									

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきってください。
- 使用に際しては容器をよく振ってから所定量を取り出し、水に入れてよく攪拌して散布液を調製してください。
- 長時間放置すると沈殿物を生じることがありますが、振れば容易に元の状態に戻るため、必ず元の状態に戻してから使用してください。
- ボルドー液との混用はさけてください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣るおそれがあるので、過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせて轮番で使用してください。
- 大型散布機(ヘリコプターなど)で使用する場合は各散布機種別の散布基準に従って実施してください。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - (1)微量散布及び少量散布の場合は、微量散布装置以外の散布器具は使用しないでください。
 - (2)無人航空機による散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - (3)散布中、薬液の漏れのないように機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - (4)微量散布の場合、他の農薬との混合は行わないでください。また少量散布の場合は特定の農薬(混合可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混合は行わないでください。
 - (5)散布薬液の飛散によって自動車の塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - (6)作業後は次の項目を守ってください。
 - ・使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者をきめて保管してください。
 - ・機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- 本剤をかんきつ(みかんを除く)の施設栽培には使用しないでください。
- ぶどうに使用する場合は、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意してください。
- だいずの紫斑病に対しては、落花後~若英期に2~3回散布してください。
- 本剤を使用した場合には、ペノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種初への処理及び塗布処理は除きます。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意

- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - 散布の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
 - 作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
- 保管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に保管してください。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

本資料は、2025年3月現在の登録内容に基づいています。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
お問合せ (03)4212-9655
(平日9~12時、13~17時、土日祝日を除く)



最新の登録内容、
SDSはこちら